

秋の防災訓練【管理係】

10月15日(水)に、今年度2回目の防災訓練を行いました。防災訓練は生徒・教職員共に、非常時にどのような準備をし、行動するかを確認できる貴重な機会になっています。今回は管理棟2階理科室から火災が発生したと想定し、火災発生現場を避けて第1避難場所の第1体育館へ緊急避難しました。実習を行っている際の火災という想定で、農場は農場長が点呼確認・報告を行った後、講評をしていただきました。

第1体育館では副校長先生から9年前に発生した、鳥取県中部地震の話がありました。避難点呼直後会場は少しざわついていましたが、副校長先生が話し始めると空気が一変し、生徒1人1人は真剣なまなざしで聞いていました。大きな地震を実際に体験されたという話は、どのような言葉よりも、生徒の心に響いたようです。私自身、9年前地震が発生した日を思い出すと、実習中に大きな揺れが起こり動揺しながらも、なんとか実習中の生徒の点呼を行ったことを思い出しました。電気が復旧してからは全職員で分担し、インターンシップ中の生徒の体験先や家庭に電話し、全員の安否確認を行ったことや、全職員で学校に残った生徒を家庭まで送り届けたことなど、様々な記憶がよみがえってきました。地震や火災などの災害は他人事ではなく、いつ何時誰でも遭遇する可能性があります。それを実感することができた訓練になったのではないのでしょうか。

今後もし実際に火災や地震が起こったとしても、その時に今回の訓練を生かし、どのような行動をとればいいのかイメージできていることが大切です。またこの機会に、家庭でも災害が起こった時の対応を話し合っていたいただければ幸いです。

＜火災発生現場を避け第1避難場所の第1体育館避難する生徒＞



＜農場でも避難開始＞

＜農場も点呼完了＞

